

ナシの高接ぎ更新は秋に行っても活着良好

ナシ品種の早期更新法として、前年秋の10月に葉のある緑枝（1年生枝）を用いて高接ぎを実施した。その結果、慣行の4月に休眠枝を高接ぎするよりも活着後の生育が良好であった。活着率も同等であることから、早期品種更新の手法として有効である。

内 容

ナシ品種の早期更新は、「高接ぎ」として4月に更新用品種の休眠枝を既存のナシ樹に接ぎ木する方法が一般的であるが、この時期は受粉作業などが多く忙で作業に取り組みにくい。そこで、前年10月に緑枝（1年生枝）を用いて高接ぎする方法を検討した。

2012年10月4日に19年生「おさ二十世紀」の1～3年生枝を基部約15cmで切断して台木とし、「おさゴールド」緑枝を切り接ぎした（秋接ぎ区）。緑枝は1芽のみを使用し、葉柄をつけた状態で接ぎ木した（写真）。なお、対照として2013年4月8日に「おさゴールド」の休眠枝を同様に切り接ぎした（春接ぎ区）。

その結果、秋接ぎを行った緑枝は、ほとんど休眠状態で越冬し、翌年春に萌芽した。活着率は春接ぎと同等の83%であったが、秋接ぎ区は春接ぎ区より活着後の生育が良好であった。最終的には差は小さくなつたが、6月時点の新梢長は春接ぎ

区より大幅に伸長した（表）。

秋接ぎの芽が休眠状態で越冬するのは、この時期のナシの芽の休眠が最も深いためと考えられる。また、接ぎ木の成否は、芽が動いていない冬期に元の穂木の状態がそのまま保たれているか否かで判断できた。現地（香美町）では、同様の処理を他品種でも実施しているが、やはり活着は良好であり（データ略）、早期品種更新の手法として有効と考えられる。

普及上の注意事項

接ぎ木は、台になる枝の樹皮直下の形成層と穂木の形成層を合わせ、その部位を絶縁テープなどでしっかりと止めた後、接ぎ木用テープで巻く。但馬地域など樹上に積雪が予想される地域では、この状態で春まで長期間放置するため、強く固定する必要がある。

真野 隆司（農産園芸部、
前北部 農業・加工流通部）
(問い合わせ先 電話：0790-47-2424)



写真 秋接ぎの状況(左)と接ぎ木に使用する緑枝(右)

表 ナシ「おさゴールド」の接ぎ木時期が活着率と穂木の生育に及ぼす影響

試験区	活着率(%)	新梢長(cm)	
		(6月7日)	(11月12日)
秋接ぎ ¹⁾	83.3	74.8	82.7
春接ぎ ^{2)(慣行)}	83.3	10.4	66.2

1) 2012年10月4日接ぎ木
2) 2013年4月8日接ぎ木